

報道関係者各位
2026年9月16日

証券コード: 3900
株式会社クラウドワークス

AI推進者「足りている」中小企業わずか11.1% クラウドワークス、中小企業576社「AI活用レベル調査」発表

AI活用が進む企業ほど外部AI人材に依頼 業務自動化済み企業はチャットどまり企業の3.7倍

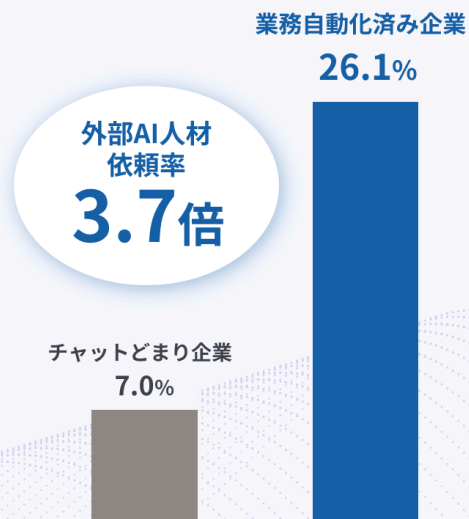
フリーランス業界最大級プラットフォーム(登録ユーザー数700万人・登録企業100万社(*1))を基盤に、AI人材のマッチングおよびDX・AXコンサルティングサービスを提供する株式会社クラウドワークス(本社:東京都港区 代表取締役社長 兼 CEO: 吉田 浩一郎 以下「当社」)は、従業員数5~299名の企業の経営者・役員・部長クラスを対象に「中小企業のAI活用レベル調査」を実施しました。

中小企業 576社

AI推進者「足りている」
わずか 11.1%

CROWDWORKS

中小企業AI活用レベル調査



調査では、中小企業のAI活用状況をLv.0「関心なし」からLv.5「複数のAIによる業務全体の最適化」までの6段階で確認したうえで、AI導入を主導する「AI推進者」の確保状況を尋ねました。その結果、AI推進者が「足りている」企業は11.1%にとどまり、確保を検討した企業でも採用・育成・外注のいずれも半数近くが中断・未着手という実態が明らかになりました。なかでも外注は、3社に1社が検討したことがありません。一方、AI活用が進んだ企業ほど業務ごとに外部のAI人材に依頼しており、業務自動化済み企業(Lv.4・Lv.5)ではチャットどまり企業(Lv.2・Lv.3)の3.7倍。AI活用を推進するための選択肢の一つとして、必要な業務ごとに外部の人材とつながる形が見えてきます。

*1 当社グループ全体の累計数値

■「中小企業のAI活用レベル調査」結果サマリ(*2)

<調査結果サマリ>

- AIを利用している企業は約6割(59.6%)、ただしその8割(80.9%)は「チャットどまり」
- チャットどまり企業と業務自動化済み企業で、最も差が開いたAI導入の障壁は「AIに詳しい推進リーダーの欠如」

3. AI推進者が「足りている」中小企業は、わずか11.1%、業務自動化済み企業でも26.1%にとどまる
4. AI推進者の確保は、採用・育成・外注とも半数近くが中断・未着手。外注は3社に1社(33.0%)が検討したことがない
5. 一方、業務自動化済み企業の4社に1社(26.1%)は業務ごとに外部のAI人材を活用。チャットどまり企業の3.7倍
6. AIを業務システムに連携できる中小企業は2割。「時間」も「人材」も足りない

<当社コメント>

AI活用が進む企業ほど、業務ごとに外部のAI人材へ依頼しています。AIツールの導入や既存システムとの連携を社内だけで抱えず、外部の力で進めることが業務自動化への近道だと考えています。

*2 サマリー1はスクリーニング調査(n=4,172)、2～6は本調査(n=576)の数値。4はAI推進者の確保を検討した経験がある企業(n=379)が対象。本調査はAI活用レベル別に約100名ずつ(Lv.5のみ76名)を回収する均等割付

■ 調査結果①: AI利用企業は59.6%、ただしその8割(80.9%)は「チャットどまり」

全国の中小企業(従業員数5～299名)の経営者・役員・部長クラス4,172名を対象に、自社のAI活用状況を6段階(Lv.0～Lv.5)で聞きました(*3)。AIを利用している企業(Lv.2～Lv.5)は59.6%となりました。

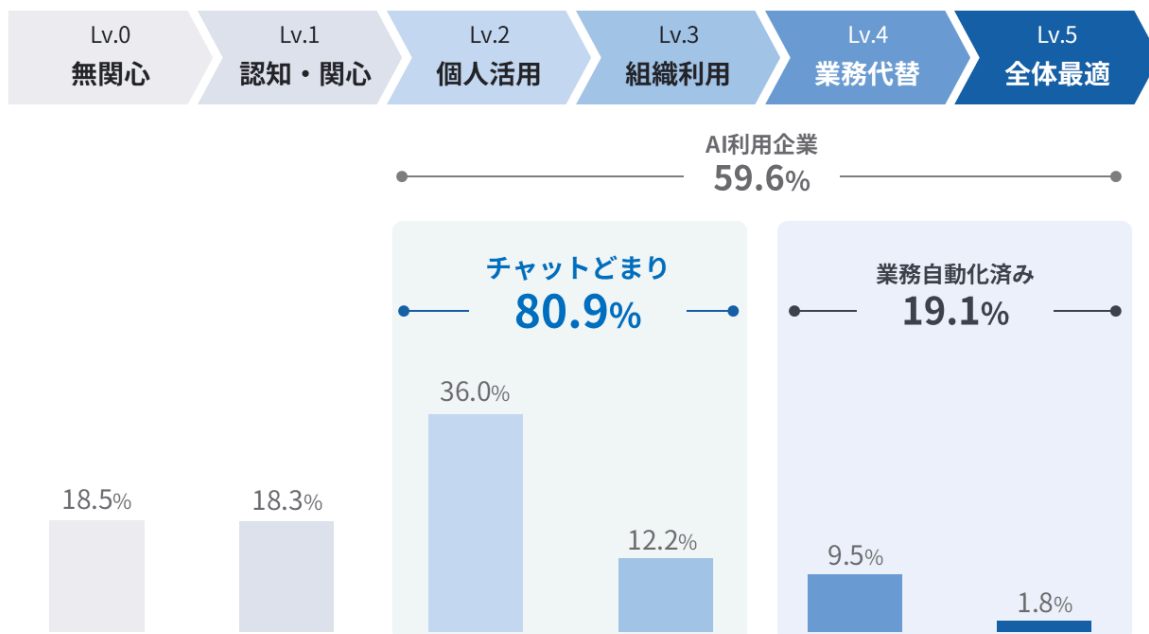
しかし、AIを利用している2,485社の内訳では、80.9%(Lv.2・Lv.3)がチャット機能の利用にとどまります。業務システムと連携した自動化(Lv.4・Lv.5)に至ったのは、わずか19.1%です。

調査結果① クラウドワークス「中小企業のAI活用レベル調査」(2026年9月、本調査576名)



AI利用企業は 59.6%、ただしその 80.9% は「チャットどまり」

Q. 自社では、AIを業務に導入・活用していますか。最も近いものをお選びください。(n=4,172/単一回答)



※このほか「わからない」(3.7%)
※質問文のAIは、生成AI=ChatGPTのようなものを含む

*3 各レベルは調査の選択肢に対応。Lv.0「会社として関心がない(未導入)」/Lv.1「会社としてAIに興味はあるが、何から始めればよいかわからない(未導入)」/Lv.2「社員が、AIを個人的に使っているが、社内ルールは整備されていない」/Lv.3「AIツールが全社導入されているが、チャット機能の活用にとどまっている」/Lv.4「AIと業務システムが連携し、一部の作業が自動化されている」/Lv.5「複数のAIが連携し、業務全体が自律的に最適化されている」。このほか「わからない」3.7%。

■ 調査結果②: チャットどまり企業と業務自動化済み企業で、最も差が開いたAI導入の障壁は「AIに詳しい推進リーダーの欠如」

チャットどまり企業(Lv.2 個人活用層・Lv.3 組織利用層)と、業務自動化済み企業(Lv.4 業務代替層・Lv.5 全体最適層)でAI導入の障壁を比較したところ、6項目すべてで、チャットどまり企業のほうが「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合が高くなりました。最も差が大きかった障壁は「AIに詳しい推進リーダーの欠如」(74.5% vs 54.0%、20.5pt)でした。

調査結果② クラウドワークス「中小企業のAI活用レベル調査」(2026年9月、本調査576名)



チャットどまり企業 vs 業務自動化済み企業

最も差が開いたAI導入の障壁は「AIに詳しい推進リーダーの欠如」

Q. 自社でAIを導入するうえで、次の点ほどの程度「障壁」になっている／なっていましたか(各項目について、単一回答)

● 業務自動化済み企業 (n=176) ● チャットどまり企業 (n=200) 差

AIに詳しい推進リーダーの欠如

54.0%

74.5%

20.5pt

費用・費用対効果が不透明

51.7%

70.0%

18.3pt

事例が高度で自社に当てはめられない

39.8%

56.5%

16.7pt

何が障壁かわからない

39.8%

53.5%

13.7pt

セキュリティリスクへの対応方法の整備

67.6%

79.5%

11.9pt

業務フローを変えることへの抵抗感

39.8%

47.0%

7.2pt

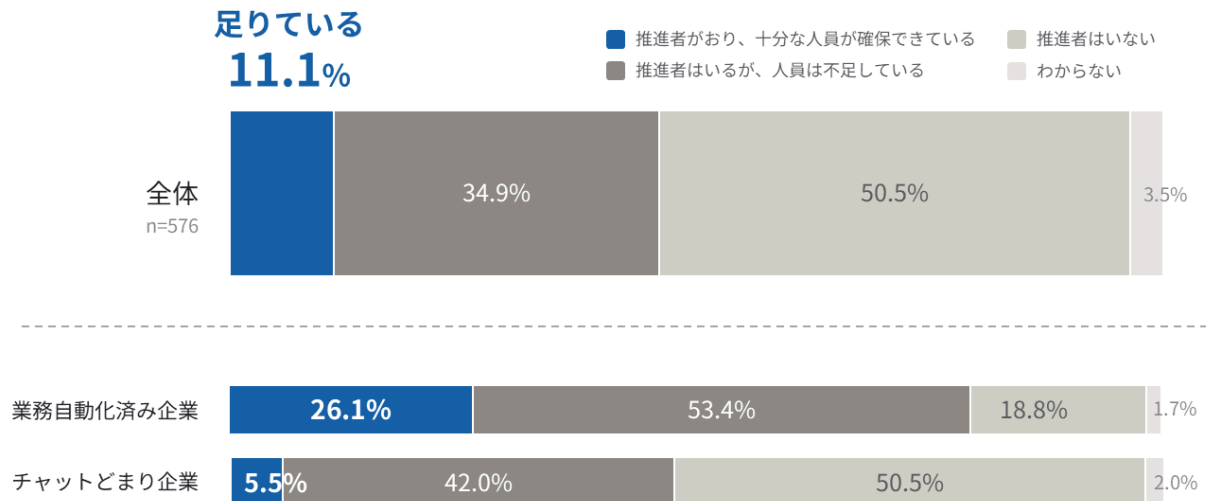
※各障壁に「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合を比較
※AI活用レベル別の均等割付のため、実際の構成比とは異なります

■ 調査結果③: AI推進者が「足りている」中小企業は、わずか11.1%、業務自動化済み企業でも26.1%にとどまる

その確保状況を聞くと、部署・会社単位でAI導入を主導する「AI推進者」について「十分な人員が確保できている」と答えた企業は、全体でわずか11.1%でした。チャットどまり企業では5.5%。業務自動化済み企業でも26.1%と、4社に1社にとどまっています。

AI推進者が「足りている」中小企業は、**わずか11.1%** 業務自動化済み企業でも **26.1%**にとどまる

Q. 自社に部署・会社単位でAI導入を主導する「AI推進者」はいますか。最も近いものをお選びください(単一回答)



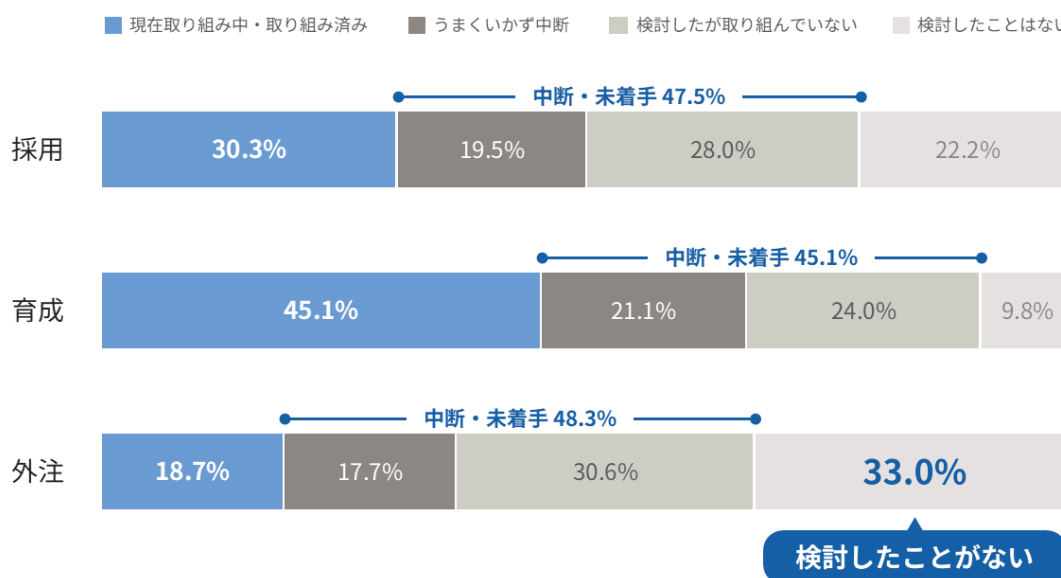
※「推進者はいない」は「挫折した」「検討したことはあるが、いたことがない」「検討したことがない」の合計
※全体 n=576、業務自動化済み企業 n=176、チャットどまり企業 n=200。AI活用レベル別の均等割付のため、実際の構成比とは異なります

■ 調査結果④: AI推進者の確保は、採用・育成・外注とも半数近くが中断・未着手。外注は3社に1社が検討したことがない

AI推進者の不足を、企業が放置しているわけではありません。確保を検討したことがある企業は65.8%にのぼります。しかしそのうち、採用では47.5%、育成では45.1%、外注では48.3%が「うまくいかず中断した」または「検討したが取り組んでいない」と答えています。なかでも外注は、取り組み済みが18.7%と3手段で最も低く、「検討したことはない」企業が33.0%と3社に1社にのぼります。

AI推進者の確保は、採用・育成・外注とも **半数近くが中断・未着手** 外注は **3社に1社(33.0%)** が検討したことがない

Q. 「AI推進者」の人員を確保する/した際の手段について、自社にあてはまるものをお答えください。(n=379/各手段について、単一回答)



※AI活用レベル別の均等割付のため、実際の構成比とは異なります

なお、中断・未着手と答えた企業が挙げた課題は手段ごとに異なりますが、3つの手段に共通して上位に挙げたのは「人がいない」ことです。採用では募集要件に合う人材が、育成では教えられる人が、外注では短期の依頼を受ける先がいません。人を確保する手段が、人がいないことで止まる堂々巡りになっています。

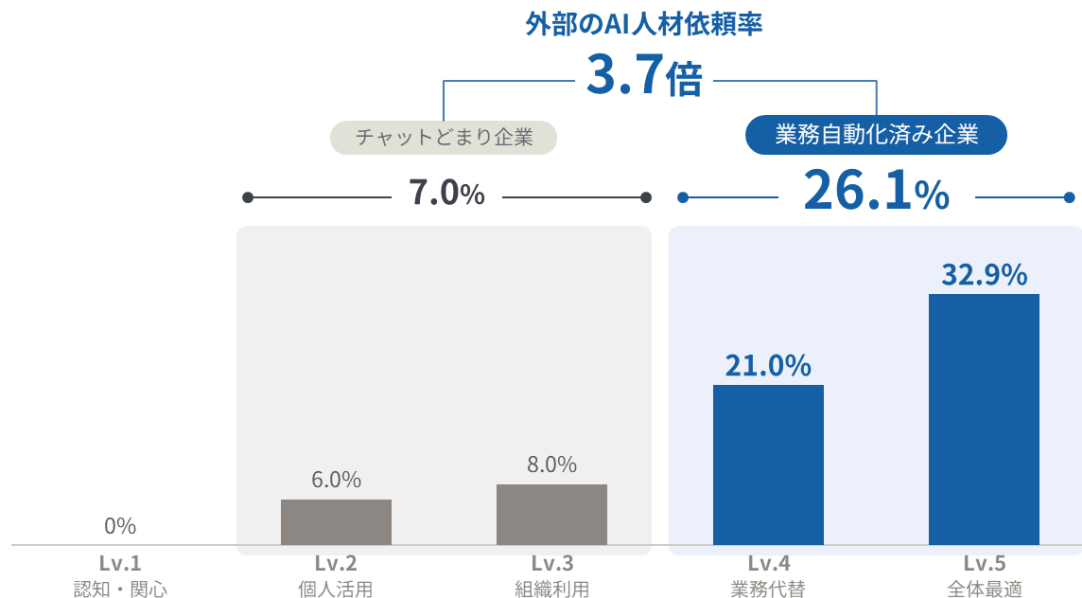
手段	取り組めていない理由(上位3つ・複数回答)
採用 (n=180)	1位: 募集要件に合う人材がいない(28.3%) 2位: 人件費の見通しが立たない(21.7%) 3位: 募集条件がわからない(18.3%)
育成 (n=171)	1位: 何から学べばよいかわからない(43.3%) 2位: 教えられる人が社内にはいない(40.9%) 3位: スキル取得の時間確保が難しい(23.4%)
外注 (n=183)	1位: 外部発注コストが高い(33.3%) 2位: 選定や契約・管理の負担が大きい(26.2%) 3位: 短期の依頼を受ける先がない(23.0%)

■ 調査結果⑤: 業務自動化済み企業の4社に1社(26.1%)は業務ごとに外部のAI人材を活用。チャットどまり企業の3.7倍

これに対し、AI活用が進んだ企業は、必要な業務ごとに外部のAI人材へ依頼しています。外部の専門人材へ依頼する方法について尋ねたところ、「すでに活用している」と答えた企業は、チャットどまり企業で7.0%にとどまる一方、業務自動化済み企業では26.1%と4社に1社にのぼり、チャットどまり企業の3.7倍でした。AIを利用している企業では、レベルが進むほど外部AI人材への依頼率も高くなり、Lv.2 個人活用層6.0%からLv.5 全体最適層32.9%まで段階的に上がります。

業務自動化済み企業の4社に1社(26.1%)は外部のAI人材を活用 チャットどまり企業の3.7倍

Q. 必要な業務ごとに単発で外部の専門人材へ依頼するという方法について、考えにあてはまるものをお答えください。(単一回答)



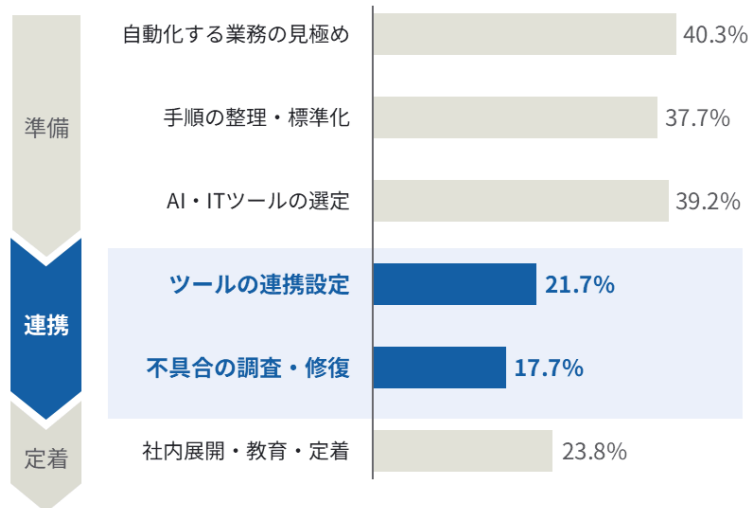
※AI活用レベル別の均等割付(各n=100、Lv.5のみn=76)のため、実際の構成比とは異なります。チャットどまり企業n=200、業務自動化済み企業n=176
※グラフは「すでに活用している」と答えた割合。Lv.0 無関心層(1.0%)は省略

■調査結果⑥: AIを業務システムに連携できる中小企業は2割。「時間」も「人材」も足りない

AI導入に必要な6つの工程のうち、自社の人員だけで対応できるものを聞きました。業務の見極め・手順の標準化・ツールの選定といった「準備」の工程は4割前後の企業が自社で対応できます。一方、AIを業務システムとつなぐ「連携」の工程では、ツール同士の連携設定21.7%、不具合の原因調査・修復17.7%と2割前後まで落ちます。これらの工程を最も困難とした企業が対応できない理由の上位3つは「時間を確保できない」45.5%、「知識・スキルのある人材がいない」41.7%、「判断・確認できる人がいない」24.4%でした。

AIを業務システムに連携できる中小企業は2割 「時間」も「人材」も足りない

Q. AI導入に必要な次の工程のうち、現在の自社の人員だけで対応できるものをすべてお答えください (n=576/複数回答)



「連携」の工程を 自社だけで対応できない理由

TOP3/n=156/複数回答

- 1 通常業務が優先で時間がない 45.5%
- 2 知識・スキルのある人材がいない 41.7%
- 3 判断・確認できる人がいない 24.4%

※理由は「連携」の工程（「ツール同士の連携設定」「不具合の調査・修復」）を最も困難な工程に選んだ企業への複数回答
※準備・連携・定着の区分は当社による整理
※AI活用レベル別の均等割付のため、実際の構成比とは異なります

■ 調査コメント: 中小企業のAI推進のカギは、必要なときに、必要な分だけAI人材を確保すること

今回のAI活用レベルは、当社がAI-BPOで各社の実態に合わせて整理してきたものです。結果は、相談の現場で見てきた景色と重なります。最も多いのは「チャットは全社で使えるようにしたが、次に何をすればいいかわからない」という声で、次の一手を打てる人が社内にはいないため、そこで止まってしまうのです。

その人を採用・育成・外注で確保しようとしても、どの手段でも半数近くが止まっています。そこで私たちは、確保の仕方を変えてこの行き詰まりを解消したいと考えています。AI推進者という1つの役割を埋めるのではなく、業務ごとに外部の人材とつながる形です。業務自動化済み企業では4社に1社(26.1%)がすでに実践しており、チャットどまり企業の3.7倍にのびります。

AI導入の工程で見ても、準備は4割が自社でできるものの、連携に入ると2割に落ち、理由は人材と時間の不足でした。AI活用が進む企業ほど外部のAI人材に依頼しているのは、この連携の壁を社内だけで越えようとしていないためだと見ています。人材も時間も足りない工程を、業務ごとに外部へ任せられる場をつくるのが「AIクラウドワークス」です。中小企業の皆さまが必要ときに必要な分だけ専門性を借りられる状態を、当たり前にしていきたいと考えています。

(株式会社クラウドワークス AIクラウドワークス担当執行役員 九鬼 隆剛)

【調査概要】

調査対象: 従業員数5~299名の企業の経営者・役員・部長クラス

サンプル数: スクリーニング調査 4,172名/本調査 576名

調査期間: 2026年9月2日~9月8日

調査主体: 株式会社クラウドワークス(委託先: 楽天インサイト株式会社)

調査方法: インターネット調査

※本調査はAI活用レベル別に約100名ずつの均等割付(Lv.5のみ76名)のため、全体値および群の値は実際の構成比を反映していません

※図・表の項目名は選択肢の表記を一部短縮しています

■日本最大級のAI技術者・専門家が集まる仕事マッチングサービス「AIクラウドワークス」とは

「AIクラウドワークス」は、AI実装・導入に関するあらゆる業務を依頼できる場として、それを担えるAI技術者・専門家とのマッチングを提供するサービスです。「社内にAIを使いこなせる人材がいない」「AI活用の相談先が定まらない」といった課題を抱える企業に対し、AI技術者・専門家が早く・安く・質良く解消します。

AIクラウドワークス: <https://ai.crowdworks.jp/>



AIクラウドワークス

仕事一覧 AI技術者・専門家一覧

仕事依頼 無料相談

お電話でのご相談
050-1792-2396
平日 10:00~17:00

日本最大級のAI技術者・専門家が集まる仕事マッチングサービス

AIであらゆる業務を ラクラク自動化

AI技術者・専門家が、貴社の業務・AI活用のお悩みを
早く・安く・質良く解消します。

事前登録AI技術者・専門家
10,000名以上

仕事を依頼する →

まずは無料相談 →

社内業務の自動化

AIチャットボット開発

営業資料・提案書作成

AI動画コンテンツ制作

SNS・広告運用の効率化

<利用企業の3つのメリット>

メリット1: 700万人登録のクラウドワークスが展開するから、適切なAI人材が見つかる！

メリット2: カンタン・便利！AIを使って実現したいことを登録するだけ！～ヒアリングからAI技術者・専門家のご紹介まで全て対応

メリット3: 必要な時に必要な分だけ！クラウドワークスコンシェルジュ(*4)がスピード解決！

<AI技術者・専門家の3つのメリット>

メリット1: 日本最大級のクラウドワークスだからAIの仕事が多数集まる！

メリット2: 応募不要で営業コストゼロ！クラウドワークスコンシェルジュがAIのお仕事を紹介！

メリット3: 手軽に案件へアクセスできて、AI時代におけるスキルアップの最良の機会！

*4 クラウドワークスコンシェルジュ: 企業とAI技術者・専門家の間に立ち、マッチングから契約後のフォローまでを一貫してサポートする当社の専任担当者

■株式会社クラウドワークスについて

クラウドワークスは「個のためのインフラになる」をミッション、「人とテクノロジーが調和する未来を創り 個の幸せと社会の発展に貢献する」をビジョンとし、フリーランス業界最大級のプラットフォームを基盤に、AI人材のマッチングおよびDX・AXコンサル

ティングサービスを展開しています。2026年6月末時点で、当社提供サービスのユーザーは797.5万人、クライアント数は111.8万社に達し、内閣府・経産省・外務省など政府12府省を筆頭に、累計で80以上の自治体・行政関連団体の利用実績があります。2014年に東証マザーズ上場、2022年の市場再編で東証グロース市場へ(証券コード3900)、2015年には経済産業省 第1回「日本ベンチャー大賞」ワークスタイル革新賞および、グッドデザイン・未来づくりデザイン賞を受賞。

会社名:株式会社クラウドワークス

代表者:代表取締役社長 兼 CEO 吉田 浩一郎

所在地:東京都港区麻布台一丁目3-1 麻布台ヒルズ 森JPタワー 28階

設 立:2011年11月11日

事 業:インターネットサービスの運営

資本金:28億1,776万円 ※2026年6月末現在

URL: <https://crowdworks.co.jp/>

運営サービス:

日本最大級のオンライン人材プラットフォーム「クラウドワークス」<https://crowdworks.jp>

日本最大級のAI技術者・専門家が集まる仕事マッチングサービス「AIクラウドワークス」<https://ai.crowdworks.jp/>

その仕事、できる人 すぐ見つかる「クラウドワークス エージェント」<https://agent.crowdworks.jp/>

ハイスキルのフリーランスに自由な働き方を。「クラウドワークス テック」<https://tech.crowdworks.jp/>

即戦力ITフリーランスと直接つながれるマッチングプラットフォーム「テックダイレクト」<https://techdirect.jp>

ハイクラスの副業「クラウドリンクス」<https://crowdlinks.jp/>

生産性向上コンサルタントによる経営課題解決支援「クラウドワークスコンサルティング」<https://consulting.crowdworks.co.jp/>

働き方を見える化するクラウド型工数管理サービス「クラウドログ」<https://www.crowdlog.jp/>

副業・フリーランス向けのオンラインスクール「クラウドワークス アカデミー」<https://academy.crowdworks.jp/>

30秒で作れるスキルEC作成サービス「PARK」<https://park.jp/>

初期費用なしの会費決済サービス「メンバーペイ」<https://memberpay.jp/>

グループ会社:

“ハタラクを自由化し、人生の可能性を広げる”副業プラットフォームを運営「株式会社シューマツワーカー」

<https://company.shuumatu-worker.jp/>

プロのデザイナー・クリエイターが利用する派遣・転職・フリーランス支援会社「株式会社ユウクリ」<https://www.y-create.co.jp/>

テクノロジーとデザインの力で「もっと便利に・楽しく」を創り出すWEB・アプリ開発会社「株式会社ソニックムーブ」

<https://sonicmoov.com/>

700万のフリーランスを活用し、“DXコンサルの民主化”を目指す「株式会社クラウドワークス コンサルティング」

<https://cw-consulting.co.jp/>

【本件に関する報道関係者の方からの問い合わせ先】

株式会社クラウドワークス 広報室

E-mail: pr@crowdworks.co.jp TEL: 080-7502-9316
